

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。

1. 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる
2. 協調性、規範意識を身につけ、周囲から尊敬される社会人を育てる
3. 地域社会での存在意義を高め、生徒が誇りをもてる学校づくり

2 中期的目標

1. 社会の中で主体的に生きる力を育てる

(1) 基礎的・基本的な学力の育成

ア 授業での ICT 活用をすすめ、基礎学力の充実を図る

イ 授業改善を図るとともに、授業内容・授業形態の工夫により、確かな学力を身につけさせる

※ 進行率の大幅改善、卒業者数の拡大

(2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成

ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る

※ 主要な資格について、毎年前年度を上回る人数が取得

(3) 在学中の就労を促進するとともに、正規就職を 20 名以上、年度内内定率 100% を目標とする

ア 未就労生徒に対し、個別指導と個別支援による就労促進をおこなう

イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する

※ 学校斡旋就職希望者数の拡大と内定率の向上

2. 周囲から尊敬される社会人を育てる

(1) 授業規律の確立

ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る

※ 良好な学習環境を実現し、生徒の満足度を向上

(2) 協調性や社会性の育成

ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る

※ 出席率の大幅改善と中途退学の防止

3. 誇りをもてる学校づくり

(1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得

ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施など、地域から見える、特色ある学校の取り組みの推進

※ 保護者アンケートにおいて、学校の特色ある取り組みへの認知度で高評価を得る

(2) 広報活動の充実により、学校の取り組みを広く周知

ア 学校ホームページの充実、地域自治会での広報などを積極的に展開する

※ 公開講座、学校見学会等への参加者の増加

(3) 人材育成により、優れた教育環境の提供

ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり

※ 教育課程の改革と意欲的な指導体制の確立

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学力の向上、授業改善に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒)「先生に質問しやすい(71.2%)」「学習で努力したことを認めてくれる(70.5%)」「評価の基準が示されている(67.3%)」「生き方について考える機会がある(71.6%)」 ・低評価(生徒)「授業で発表する機会がある(54.3%)」 ・自分の考えをまとめたり発表するなどの、生徒がより主体的となる授業の工夫が必要だと考えられる。 <p>特色ある取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒)「他の学校にない特色がある(78.3%)」「進路についての情報を知らせてくれる(76.6%)」 ・高評価(保護者)「特色ある教育活動に取り組んでいる(90.9%)」 ・低評価(生徒)「環境、国際理解、ボランティアなどについて学習する機会がある(55.2%)」「他の学校などと交流する機会がある(52.6%)」「ホームページをよく見る(41.9%)」 	<p>第 1 回(平成 26 年 6 月 13 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在では子供は自分の学校に誇りを持っている。担任の先生からもよく連絡をさせていただくことで、子どもや学校の現状把握ができ、とてもありがたく感じる。 ・昨年度の担任の先生からの連絡が多く、非常に助かった。今後も連携をとってほしい。 ・友達関係や信頼関係が得られることで、世の中にも溶け込むことができるようになるのではと感じる。この点を重視してほしい。 ・学校運営計画を立てるときは、たくさんの目標を立てすぎることなく、重点を絞った方がよい。本年度は、生徒とのコミュニケーションを図り、先生と生徒との信頼関係をしっかり構築することを目標にするのはどうか。 <p>第 2 回(平成 26 年 11 月 14 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校生活支援カード」をしっかりと活用するとよい。 ・昔は見た目や行動が荒っぽい生徒が多かったように思うが、最近は素直で子供っぽくなった生徒がめだつように思う。これも社会傾向や先生方の指導の賜物では

<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目など、特色ある学習や資格取得を通じての進路実現などキャリア教育の取り組みも評価されている。 ・他校や教科外の取り組みなど、学校の枠を超えた活動に向け今後の対応が必要である。 <p>学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒)「自分の学級は楽しい(71.3%)」 ・低評価(保護者)「生徒が生き生きしている(68.2%)」 ・学校生活については、概ね高評価であるが、部活動をはじめ、学校の魅力を高める取り組みを強め、さらに学校生活の充実を図ることが必要である。 <p>学校の指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒)「先生は生徒の意見を聞いてくれる(73.4%)」「協力して生徒指導に当たっている(70.5%)」「先生は協力し合っている(76.0%)」「先生は決まりや約束事を守っている(74.0%)」「秘密を守ってくれる(72.6%)」 ・高評価(保護者)「間違った行動を厳しく指導してくれる(100%)」 ・教員が組織的に指導に当たっていることが十分伝わっており、今後も生徒の規範意識の育成や社会性の向上を図る指導にまい進したい。 	<p>ないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私自身もかつては工業高校に所属しており、世の中に出てきちんと働き、税金を納めることを目標に指導しようと努力してきた。しかし、最近では「正社員よりアルバイトの方が良い」などの意見が生徒本人だけでなく家庭などからも出ている。この点での指導を充実させていただきたい。 ・子供は今年4年だが、学校は居心地が良かったと思っているようだ。育てていただいたことに感謝している。特に部活動では、顧問の先生に足を向けて寝られないほどである。 ・こうして協議会に来させていただくと、学校の様子がよく分かる。学校のホームページを充実してくれれば有難い。 <p>第3回(平成27年2月13日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートについて、今回の設問だけでは見えない部分も多いのではないかと。 ・全般に先生に対するニーズが多すぎて、先生の方がてんてこ舞いになっているのではないかと。大変だと思うが、保護者の期待も大きいはずなので今後とも頑張っていたきたい。 ・全体的によくやっていると思うし、アンケートに関して低い項目であっても、詳細にみると学年が上がるにつれて改善している。これは取り組み自体が成功している証左ではないかと。 ・2年に進級できれば、そこからはスムーズにいくと感じる。1年での指導が肝心だと考える。 ・自分の子どもは中学では不登校で、自分で定時制に行きたいという目標を決めたが、ここまで変わるのか、と思うほど変わった。 ・子どもは自動車関係の勉強がしたくてこちらに入学した。現在は一人暮らしのため、話す機会は少ないが、頑張っているように思う。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会の中で主体的に生きる力を育てる	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の育成 ア 授業でのICT活用をすすめ、基礎学力の充実を図る</p> <p>(2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の未来を切り拓く能力を育成 ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る</p> <p>(3) 正規就職の拡大 ア 個別指導と個別支援による就労指導</p>	<p>(1) ア①国語、数学、英語等つまずきの多い科目の授業でICT活用授業を実施し、基礎事項の理解をすすめる ②授業において、繰り返し小テストを実施し、基礎学力の定着をめざす</p> <p>(2) ア①溶接技術、CAD、計算技術等、授業内容と関連した資格取得に関わる知識・技能の指導を充実させる ②資格取得をめざした講習・個別指導を実施し、生徒個別の支援をおこなう</p> <p>(3) ア キャリアコーディネータ等との連携による求人開拓、個別指導を継続的に強化し、卒業時に正規就職できるよう支援をおこなう</p>	<p>(1) ア①国語、数学、英語授業で電子黒板機能を活用した授業の実施 ②各教科での繰り返し小テストを実施し、単位取得者の増加をはかる(進行率60%以上)</p> <p>(2) ア①授業の一環として検定を実施、主な資格取得数の増加をはかる(資格取得者数45名以上) ②3級自動車整備士試験受験者、合格者の増加(受験者5名以上、合格者2名以上)</p> <p>(3) ア①生徒のニーズに合致した求人開拓 ②正規就職希望者20名、年内内定率60%以上 ③将来のキャリアを見通した進学の実現</p>	<p>(1) ア①国語科・社会科、資格取得講習でICT授業を実施したが、数学・英語は来年度実施予定。(△) ②英語科・国語科・機械科で実施し、基礎力の向上に努めた。(○)</p> <p>(2) ア① 各種検定に関して、資格取得者述べ数は35名となった。(△) ②受験者は2名、合格者は現時点で未定である。(△)</p> <p>(3) ア①生徒の希望に合わせて3件開拓し、内定率の向上に役立てた。(○) ②就職希望21名、学校斡旋希望者6名の内定率は100%となった。(◎) ③進学希望は6名は全員決定した。うち1名は最難関私大に合格した。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 周囲から尊敬される社会人を育てる</p>	<p>(1) 授業規律の確立 ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る</p> <p>(2) 協調性・社会性の育成 ア 学校生活の魅力を高め、集団生活への参加促進を図る</p>	<p>(1) ア①全教職員による生活指導体制を確立し、指導事例に即応し、良好な学習環境を維持する ②規範意識、社会性育成のための講座等の指導機会を適宜設け、主体的に社会人としてのマナーを獲得させる ③高校生活支援カードを活用し、家庭および中学校・外部機関と連携を進め、きめ細かい支援を充実させる</p> <p>(2) ア①部活動を活性化、注目される成果をあげ、生徒の活動参加を促す ②秋季発表大会などの成果発表機会に積極的に参加し、生徒の能力を引き出す</p>	<p>(1) ア①授業時の問題事例発生を抑止 ②欠席の多い者、中途退学者の減少(欠席の多い生徒40名以下、年間退学者20名以内) ③中学校・外部機関との連携強化拡大(中高連絡会参加15校)</p> <p>(2) ア①主要な部活動で全国大会レベル進出 ②秋季発表大会の生活体験発表に出場</p>	<p>(1) ア①今年度授業時の問題事例は無し。懲戒全体で10件と大幅に減少している。(◎) ②欠席が多い生徒、30名。退学者は29名となった。(△) ③中高連絡会の参加は16校。また、立命館大学との連携会議に首席が3回参加した。(○)</p> <p>(2) ア①陸上部の4名が全国大会参加し、優勝、準優勝各1の成績を上げた。(○) ②生活体験発表に1名が発表し、好成績を挙げた。また、軽音楽部も2名参加した。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 誇りをもてる学校づくり</p>	<p>(1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得 ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施</p> <p>(2) 学校の取り組みを広報 ア 地域での広報を積極的に展開する</p> <p>(3) 優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり</p>	<p>(1) ア①生徒による学校周辺巡回清掃等の地域連携活動を実施 ②夏休み工作教室を拡大・充実するほか実習作品の寄贈をすすめる</p> <p>(2) ア①学校の取り組みを自治会回覧等に掲載依頼し、地域への広報を実施する ②保護者・生徒のニーズに合致した学校ホームページの改善をすすめる</p> <p>(3) ア①工業系科目の充実を図り、生徒意欲を持って取り組める教育課程の再編成をすすめる ②授業公開、研究授業参加、専門研修派遣を実施し、授業力の向上と、指導内容の刷新を図り、優れた学習環境を実現する</p>	<p>(1) ア①地域連携活動を年間通じて実施する(年間3回以上) ②地域小学生対象の工作教室を実施(参加者数のべ20名以上)</p> <p>(2) ア①体育祭、文化祭への地域招待の広報を行う ②学校教育自己診断において高認知度を獲得する(60%以上)</p> <p>(3) ア①教育課程の見直しを進め、現指導体制の再編成の実現 ②授業公開の実施、研修への派遣(3名の研修派遣)</p>	<p>(1) ア①生徒会生徒による清掃活動などを実施した。(○) ②工作教室に小学生18名、保護者6名が参加した。来年度は出張教室も実施を検討する。(○)</p> <p>(2) ア①今年度初めて体育祭で保護者の参観を実施した。文化祭は例年同様の参加であった。(○) ②「学校は教育情報について提供の努力をしている」の項目で89%の肯定的回答を得た。(◎)</p> <p>(3) ア①カリキュラム委員会を開催し、工科高校としての特色あるカリキュラム作りに継続的に取り組んだ。(○) ②府内研修に1名を派遣した。また、パッケージ研修に伴う公開授業を実施し、授業力向上に取り組んだ。また、府外高校に2名研修派遣した。(○)</p>